

国語科学習指導案

令和3年10月 第2学年 指導者 小久保 佑亮

1 単元名 小説を読む（一） 「ひよこの眼」

2 学習指導要領上の位置付け

- | |
|--|
| (1) 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 「(1)イ」 |
| (2) 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。 「(2)ア」 |

3 目標

- | |
|--|
| 山田詠美の短編小説集『晩年の子供』に収録された「ひよこの眼」を読むことを通して、次の事項が身に付けられるようにする。 |
| (1) 小説を読む際の基本的な読解方法を身に付けようとしている。 【関心・意欲・態度】 |
| (2) 表現の特長や工夫について、具体的な描写に着目し、それらがどのように作用しているかを考えている。 【(1)イ】 |
| (3) 回想形式で始まることを意識し、小説全体の構成を考えている。 【知識・理解】 |

4 指導計画 ※別紙参照

5 本時の展開（6／7）

(1) ねらい

映像コンテンツにおける表現の工夫や特長に気づき、発表し合う活動をすることで、そのようなプロセスを本文の読みにも生かして、結末を予想できるようにさせる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応	時間	○指導上の留意点 ◎研究上の手立て 評価項目<方法（観点）>
<p>1 前回内容の振り返り（映画における表現の工夫や特長と結末の関係性について）をする。</p> <p>・同じ結末を予想していても、その根拠やアプローチは多種多様だな。</p> <p>・意味段落5の前半部分までの登場人物の心情、出来事、展開について思い出す。</p>	10分	<p>○生徒たちの考えを引き出しやすい雰囲気づくりをする。</p> <p>○意味段落5の中に、「幹生」の言動から結末（意味段落6）につながる表現があることを意識させる。</p>
<p>2 意味段落5後半部分を音読する。（音読後に、再度会話のやりとりをロールプレイングする。）</p> <p>・「幹生」の言っていることは、どこまで本当なのか？</p> <p>・「幹生」と人との間にある距離感はどう一体何なのだろう。</p>	30分	<p>○机間支援をしながら、難読漢字の読み方や語句の意味で注意が必要なものを指示する。</p> <p>○「私」役に女子生徒、「幹生」役に男子生徒を指名して、朗読CDとはまた違った現実的な会話のやりとりをすることで、生徒たちの関心を引き付ける。</p> <p>○「幹生」の目に関する「私」の考察について整理する。</p>
<p>[めあて] 表現の工夫や特長に気づき、物語の結末について予想しよう。</p>		
<p>・「幹生」の話す身の上話と「私」が感じた「幹生の目」に関する懐かしさがどのようにつながるのかな。</p> <p>3 5～6人の班に分かれて、予想した物語の結末について発表し合う。</p>		<p>○学習プリントに取り組み、予想するにあたって、正解・不正解という概念はないことを伝えて、ハッピーエンドとバッドエンドの二通りの結末を考えさせる。</p> <p>◎「何となく」や「勘」で答えるのではなく、本文中に書かれた叙述を根拠にして、先の展開を考えるように促す。</p> <p>○発表した考えについて、否定的な意見ではなく、発表を聞く中で思い付いたことや内容が深まるような質問をするように指示をする。</p>

(予想される電子ホワイトボードの画面)

次の叙述からどんな展開が予想できるだろうか？

ハッピーエンド

1 班

●●から、二人は付き合うことになる。

4 班

●●の表現より、幹生と結婚することとなる。

6 班

●●より、学園祭を二人で無事成功させて、クラスのみんも羨むカップルになる。

バッドエンド

2 班

●●より、幹生は死んでしまう。

3 班

●●より、「私」と「幹生」は別れてしまう。

5 班

●●から、幹生がまた転校してしまい、二人は離れ離れになってしまう。

7 班

●●とあるように、「幹生」の家がまた夜逃げして、二人はもう会えなくなる。

指導計画 国語科 第2学年 単元名 小説を読む(一) 「ひよこの眼」(全7時間計画)

目標	山田詠美の短編小説集『晩年の子供』に収録された「ひよこの眼」を読むことを通して、次の事項が身に付けられるようにする。 (1) 言葉を手掛かりにして登場人物の心情を理解したり想像したりすることができる。 (関心・意欲・態度) (2) 物語上、重要となる表現を自ら見付け出し、それらを基に結末を想像することができる。 (読むこと) (3) 物語の語り手である「私」の発話位置を意識し、回想形式という小説の構成を理解することができる。 (知識・理解)			
評価規準	(1) 小説を読む際の基本的な読解方法を身に付けようとしている。 【関心・意欲・態度】 (2) 表現の特長や工夫について、具体的な描写に着目し、それらがどのように作用しているかを考えている。 【(1)イ】 (3) 回想形式で始まることを意識し、小説全体の構成を考えている。 【知識・理解】			
過程	時間	○ねらい ㊦あて	・振り返り(意識)	評価項目 〈方法(観点)〉
つかむ	1	○作者の山田詠美のプロフィールとその作品の特徴について知る。 ○朗読CDを聴き、登場人物や背景についての情報を整理する。 本文を正しく読もう	・山田詠美の作品は、作者の生い立ちや半生が作品に大きく影響していることを理解できた。 ・主人公「私」の学生時代を回想する視点について理解することができた。	・結末に関する自分の考えや予想を立てることができている。 〈配信課題(3)〉
追究する	1	○意味段落1～2における「幹生の目」に関する記述に着目して、幹生の心情を推測させる。 言語化が難しい感情について考えよう	・「うわの空」「涙の膜」について、生徒自身の経験と結び付けて考えることができた。	・適切な言葉で自分の経験を表現できている。 〈学習プリント(1)〉
	1	○意味段落3～4の「私」と「幹生」の会話のやりとりから、登場人物の心情や関係性の変化を読み取らせる。 会話のやりとりから関係性を考えよう	・「私」の「幹生」に対する観察や分析が「目」だけでなく、その表情や言動にまで範囲が拡大したことに気付くことができた。	・表情や仕草の意味を考えることができています。 〈学習プリント(2)〉
	2	○映画鑑賞を通して、結末を想像し発表し合う活動をさせる。 言葉以外を手掛かりにして結末を考えよう	・セリフ(言葉)だけでなく、表情や仕草、音楽、背景の映像など様々なものが結末を考える上での材料になることを実感した。	・言葉やセリフ以外の表現技法や語り手の視点、場面の移動などに着目することができている。 〈配信課題、観察(2)〉
	1	○映画における表現の工夫や特長に気付き、発表し合う活動をする中で、そのようなプロセスを本文の読み(意味段落5)にも生かして、結末を予想できるようにさせる。 表現の工夫や特長に気付き、物語の結末について予想しよう	・「幹生」の目と言動に関する記述から「私」の心情の変化を読み取ることができた。	・作者の表現の工夫や特長に気付き、筋道を立てて自分の考えを書き、読みを豊かにすることができている。 〈配信課題、観察(2)〉
まとめる	1	○意味段落6より、「生」と「死」の結び付きから「ひよこの眼」というタイトルについて再考させる。 小説のタイトルについて考えよう	・言外の感情についての理解が深まり、言語感覚を磨くことができた。	・作者の表現の巧みに気付くことができています。 〈学習プリント(1)〉